

デジタル田園都市国家構想実現会議（第9回）議事要旨

日 時：令和4年9月29日（木）15：20－15：50

場 所：官邸2階大ホール＋オンライン開催

議 題：1 開会

2 議事

デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）の策定方針等について

3 閉会

配付資料：資料1 デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）の策定方針等について

資料2 河野大臣提出資料

参考 デジタル田園都市国家構想基本方針の全体像

出席者：岸田 文雄	内閣総理大臣
松野 博一	内閣官房長官
岡田 直樹	デジタル田園都市国家構想担当大臣
河野 太郎	デジタル大臣
斉藤 鉄夫	国土交通大臣
柘植 芳文	総務副大臣
井出 庸生	文部科学副大臣
伊佐 進一	厚生労働副大臣
勝俣 孝明	農林水産副大臣
太田 房江	経済産業副大臣
石山 志保	福井県大野市長
井澗 誠	和歌山県白浜町長
太田 直樹	株式会社New Stories代表取締役
加藤 百合子	株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役
正能 茉優	株式会社ハピキラFACTORY代表取締役 慶應義塾大学大学院特任助教
竹中 平蔵	慶應義塾大学名誉教授
富田 哲郎	東日本旅客鉄道株式会社取締役会長
野田 由美子	ヴェオリア・ジャパン株式会社代表取締役会長
平井 伸治	鳥取県知事/全国知事会会長
増田 寛也	日本郵政株式会社取締役兼代表執行役社長
村井 純	慶應義塾大学教授

湯崎 英彦
若宮 正子

広島県知事
特定非営利活動法人ブロードバンドスクール協会理事

○岡田国務大臣 ただいまから、第9回「デジタル田園都市国家構想実現会議」を開催いたします。

皆様におかれましては、御多忙の中、お時間をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、デジタル田園都市国家構想担当大臣を拝命した、岡田直樹でございます。本日の司会進行を務めます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、資料の確認をいたします。

議事次第、資料1、2のほか、有識者委員から提出された資料は、お手元のタブレットに格納しております。

なお、柳澤委員におかれましては、所用により御欠席と伺っております。

それでは、早速、議事に入ります。

まず、デジタル田園都市国家構想総合戦略の策定方針及び「夏のDigi田甲子園」の開催結果について、資料1に基づき、私から御説明申し上げます。

デジタル田園都市国家構想の実現に向け、本年6月に、デジタル田園都市国家構想基本方針を確認決定したところであります。年末に、基本方針を踏まえつつ、まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改定し、デジタル田園都市国家構想総合戦略を策定する予定となっており、このたび、総合戦略の具体的な策定方針について、1ページでお示しさせていただいているところであります。1では、基本方針の枠組みに沿って、デジタル実装の前提となる3つの取組を強力に推進するとともに、デジタルの力を活用し、交通・産業・健康・教育・防災などの各分野における地域の社会課題の解決・魅力向上の取組を加速化・深化していくこと。2では、来年度を始期とする5か年の新たな戦略をスタートさせ、各府省庁の施策の充実・具体化を図り、2027年度までのKPIとロードマップを策定すること、それに加え、各地域が目指す地域ビジョンの実現に向け、政府一丸となって総合的・効果的に支援する観点から、各府省庁の施策間の緊密な連携について、具体的方策を戦略に位置づけることとしております。例えば、基本方針で示した6つの地域ビジョンのうち、脱炭素先行地域については、関係府省庁が連携して選定した地域に対して重点的な支援を行うことといたしております。こうした事例をさらに進めるなど、政府一丸となって地方の社会課題の解決・魅力向上につながる取組を支援していくことが重要であります。また、3では、国の総合戦略策定後、地方において、目指すべき地域ビジョンを再構築し、地方版の総合戦略を改訂するよう努めていただくものとしております。

2ページでは、「夏のDigi田甲子園」についてお示ししております。「夏のDigi田甲子園」は、デジタルの活用による地域の課題解決や魅力の向上を実現する数多くの優れた取組が参加をいたしました。審査に御協力いただいた増田委員長をはじめ、委員の皆様におかれましては、この場を借りて改めて御礼を申し上げたいと存じます。今後、受賞された取組をはじめ、優良事例の横展開を進め、地域におけるデジタル実装を加速してまいりますので、各大臣におかれましても、交通・産業・健康・教育・防災など、所管の分野における優れた取組の横展開に御協力をよろしくお願い申し上げます。

7 ページでは、「冬のDigi田甲子園」についてお示ししております。幅広く、民間企業や団体など、様々な主体を対象にした「冬のDigi田甲子園」においても、国民の皆様のインターネット投票及び有識者の審査によって、特に優れた取組を選定し、表彰いたします。

説明は以上とさせていただきますが、本日は、年末の総合戦略の策定に向けて、有識者委員の皆様の忌憚のない御意見を頂戴いただければと存じます。

また、各大臣におかれましては、有識者からの御意見も踏まえ、所管の重点施策の総合戦略への位置づけに関して、御検討のほどよろしく願いいたします。

続きまして、河野デジタル大臣より、デジタルから考えるデジタル田園都市国家構想の実現戦略について、御発言をお願いいたします。

河野大臣、よろしく願いいたします。

○河野デジタル大臣 それでは、資料2の1 ページ目をお願いいたします。国は、引き続き、マイナンバーカードをはじめ、国民共通のデジタル基盤を整備してまいります。自治体では、デジタルによるサービス改革を最初に手がける鍵となる取組を特定していただき、それを生活サービス全般に広げていく戦略を描いていただくことが重要だと思っております。その際、岡田大臣からお話のありました施策間の連携や地域間の連携が有効だと思っております。

2 ページをお願いいたします。自治体でデジタル実装を進める際には、独自のシステムをつくり込むだけでなく、他の地域の優良事例を積極的に取り込んだり、自らがトップランナーの場合はそれを全国展開する、そういう取組を積極的にやっていただいて、横展開をお願いしたいと思います。

その次の3 ページ、例えば、この北見市が主導する「書かないワンストップ窓口」の取組は、多くの自治体で取り組みやすい好事例の一つだと思っております、デジタル庁も後押しをしております。

また、4 ページ目、鍵となる取組の例となる分野ごとの好事例を挙げております。

5 ページ目、会津若松市あるいは更別村のように、包括的に複数のサービスを提供し、心豊かな暮らしの実現を目指していただきたいと思いますと思っております。デジタル庁では、こうした横展開可能な優良事例を積極的に発掘・発信してまいりたいと思っております。

また、デジ田構想の実現の鍵を握るのが、6 ページ目にありますマイナンバーカードの利用です。カードの本人確認機能により、幅広いサービスがより便利に使えるようになってまいります。

7 ページ目を見ていただきますと、行政サービスはもとより、交通・教育といった準公共分野、コンサートチケットの発行といった民間分野まで、国民の暮らしに関わる各種サービスでの利用が可能になってまいります。次回のデジ田交付金では、こうしたカードの新たな用途開拓に取り組む自治体を積極的に支援すると同時に、先進的な取組でありますTYPE2/3にチャレンジする自治体には、現状交付率全国平均以上かつ全住民への交付を目標として掲げることを求めています。また、本日、マイナンバーカードの普及・浸透を後

押しすべく、私の下で関係省庁の局長級会議の第1回目を開催いたしました。今後、各省の施策も総動員してまいりたいと思っております。

最後に、こうした取組を進める上で忘れてはならないのが、市民の事業参加、域内外の人材資金の活用です。補助事業を実施して終わりではなく、事業化に真剣につなげていくための工夫を歓迎したいと思います。

デジタル庁といたしましては、引き続き、デジタル基盤の整備とデジタル実装の支援を進めてまいります。

以上です。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続きまして、御出席の有識者の皆様方から御意見を頂戴いたしたいと存じます。

恐れ入りますが、時間が限られておりますので、お1人1分ということで、会議の進行に御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、石山委員、お願いいたします。

○石山委員 福井県大野市長の石山です。よろしくお願いいたします。

感染症の流行によりまして、国や社会全体でデジタル化を後押しする機運が広がり、本市においてもこの2～3年で急速にデジタル化が進みました。令和3年度から開始しました第六次大野市総合計画、また、人口減少対策に特化した大野市総合戦略では、デジタルを活用して地域の課題解決や魅力化につなげようとして取り組んでおり、とりわけ住民サービスや行政内部の業務でデジタル化が進みました。

課題としましては、今後国が整備するデジタル基盤をフル活用して、マイナンバーカードの利活用など、民間事業者と連携したサービスにつなげることです。また、地域経済を支える中小・零細企業や農業者は、人材、予算、地形などの面で制約が多く、寄り添ったデジタルの利用・導入の支援が必要です。特に中山間地域では課題が山積しており、資源や特性を生かしながら、デジタルで複合的に解決できる支援を求めています。新しい総合戦略が、行政をはじめ、市民や企業・団体など、みんなでデジタル実装に挑戦する機運につながることを期待しています。

ありがとうございます。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、井澗委員、よろしくお願いいたします。

○井澗委員 こんにちは。白浜町の井澗誠です。

デジタル田園都市国家構想総合戦略が策定されますことは、地方における社会課題の解決に向けた取組が推進されるものと、大いに期待をしております。そのためには、総合戦略に基づき、テレワークやその先にある転職なき移住などのデジタルを活用した具体的な施策について、地方に適した地域ビジョンをそれぞれの地域が独自に取組を進めていく必要があると感じております。白浜町としましては、目指すべき将来像を、総合戦略の中で具体的なビジョンとして掲げ、便利で快適な生活ができるようになったと感じてもらうこ

とが重要だと考えております。具体的な取組を進めていくためにも、財政的な支援のみならず、インフラや人的支援を含め、様々な観点から御支援を継続していただきますようお願い申し上げます。

どうかよろしくお願いいいたします。ありがとうございました。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、太田委員、よろしくお願いいいたします。

○太田委員 太田です。よろしくお願いいいたします。

「夏のDigi田甲子園」は、実装部門とアイデア部門の両方を受賞した前橋が大変話題になりましたけれども、ここにはデジタル田園都市が地域で成果を上げるためのヒントがいろいろあると思っていて、2つ、お話ししたいと思います。

1つ目ですけれども、今、取得するメリットがまだよく分からないと言われるマイナンバーカードなのですが、このマイナンバーカードで、交通など、その生活が変わるというイメージが、民間と連携して、すごく分かりやすく実現できるサービスがいよいよ実装されるということです。これは、まえばしIDを中心とした裏側の仕組みが大変重要なのですが、これが北海道の江別市を含めて横展開も始まっているということで、大変大きなポイントになると思います。

前橋から学べる2つ目のヒントは、こうした利活用が全国に広がるために、ソーシャルビジネスやスタートアップが大変重要な役割を果たしているということです。ここについては、行政がソーシャルビジネスやスタートアップと共につくる、共創できるように、包括や契約の仕組みをぜひ改革いただきたいと思います。

ほかのヒントに関しては、提出資料にまとめましたので、ぜひ活用いただければと思います。

以上です。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、加藤委員、よろしくお願いい申し上げます。

○加藤委員 加藤です。よろしくお願いいいたします。

私は、いろいろな地域で、いわゆる農業という課題が大きい事業を展開しています。その中で、課題の共感、市民参加型で課題を共感し合って解決していくというチームづくりが非常に重要だと思っています。そこに方法としてデジタルがあると参加しやすくなるという方程式があるかと思っていて、共感する場所、安全な場所を提供するものが、行政であり、首長さんの雰囲気づくり、リーダーシップではないかと思っています。その辺りは、できてきている地域もありますし、遅れている地域もありますので、できている地域がそのノウハウをできていない地域に展開するというのが非常に重要かと思っています。

以上です。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、正能委員、よろしくお願ひいたします。

○正能委員 正能でございます。

私からは、岡田大臣からお話のあったデジタル人材の確保、河野大臣からお話のあった域外からの人材活用に関して、2点、ございます。

まず、1点目ですが、そうした人材活用支援シーンにおいて、都会で閉塞感を感じている私たちのような若者、上が詰まっていたりなかなか力を発揮できない若者の力を、生かしていただけないでしょうか。地域には、既存の事業者だけではしがらみも多く、かといって、大企業が入っていただけではできないこともあるかと思ひます。だからこそ、閉塞感をばねにした、域外からのスタートアップの御支援をお願ひしたいです。それが、地域の好循環、若者の幸福感につながっていくのではないかと考えています。

2点目は、そうした若者が関わりのきっかけを見つけるためにも、Well-being指標というものを御活用いただけるとうれしいなという考えです。地域にむやみやたらに行くことが以前ほどにはかなわない今、行けない中でも、我々と地域をつなぐきっかけになるWell-being指標をいかに押し出していくかというところが、域外と地域の出会いとつながりをつくるポイントになっていくのではないかと考えております。

以上です。よろしくお願ひします。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、竹中委員、よろしくお願ひいたします。

○竹中委員 ありがとうございます。

デジタル田園都市に関しては、非常に大きな期待がある一方で、国民の間から、もっと分かりやすいブレークスルーの政策を求める声も聞かれます。今回の総合戦略では、国民に分かりやすいインパクトのある政策を出さなければいけないという段階だと思ひます。

その点で、2点、申し上げたいと思ひます。

第1に、5Gインフラのシェアリング、具体的に共同基地局を全国に広げるための投資の仕組みをつくる。そこには、PPP/PFIも絡められると思ひます。

第2に、いわゆるスマートシティに関する国家総合ビジョンと予算措置の仕組みをつくる必要があるのではないのでしょうか。これは昭和の話ですけれども、かつて、いわゆる全総がつくられました。五全総までつくられて、近年はこうした議論はないわけですけれども、社会システムやテクノロジーが大きく変わるときは、国家主導のこういうデジタル田園都市に関するデジタル全総のようなことも視野に入るのではないかと。これは6月に基本方針をつくっていますから、それをよりフィジカルでビジブルなものにするということの意味するのだと思ひます。これこそが、総理のおっしゃる新しい資本主義の象徴にもなりますので、ぜひそうした視点を総合戦略に含めるべきと考えます。

以上です。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、富田委員、よろしくお願ひ申し上げます。

○富田委員 富田でございます。

このデジタル田園都市国家構想が求める姿というのは、地域によってかなり差はあると思いますが、いかなる地域においても実現に向けては、産官学など多様なプレーヤーとの協力が不可欠だと思います。そのため、総合戦略の策定にあっては、国・自治体、企業や大学などの民間、それぞれの役割分担を具体的にし、その財源も含めて明確にすること、スピード感を持ってオールジャパンで取り組むという視点から、産官学の連携を後押しする内容が必要だと思います。具体的には、企業が地域へ投資するインセンティブの仕組みづくり、あるいは、官民の柔軟な人材交流といったことが重要だと思います。

併せて、デジタル実装の前提となるマイナンバーカードの活用を進めるべきだと思います。私どもJR東日本でも、前橋市でSuicaとマイナンバーカードの連携で市民サービスの提供を行っておりますが、このような取組を横展開することが、全国のデジタル実装の底上げにつながると考えております。

以上です。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、野田委員、よろしく願い申し上げます。

○野田委員 ありがとうございます。

2点、簡潔に申し上げたいと思います。

まず、1点目、河野大臣、岡田大臣から御説明いただきました横展開は大変よい施策だと思います。各自治体に共通する基本的なサービスを、早期に全国展開することは重要だと思います。ただ、同時に、真にサステナブルな地方創生を実現するという観点からは、地域ならではの個性を生かすこと、また、その地域にしかないユニークな課題やユニークな強みを軸にしてイノベーションを徹底的に生み出していくことが大変重要であり、そこに、クラスターができ、エコシステムができ、あるいは、センター・オブ・エクセレンスが生まれます。このことをぜひ後押ししていただきたいと思います。

もう一点、最後に河野大臣がおっしゃった市民参加は大変重要な観点だと思います。デジタルを使って市民の参画を促す、特に若者をエンパワーメントしていくことが必要です。台湾のオードリー・タン大臣は、私の役割はソーシャルイノベーションであるとおっしゃっていました。まさにデジタルを使ってソーシャルイノベーションを生み出すように、市民参加を促して、地域は、自分たちの手で、市民の手でつくっていくという取組を、今後、Digi田甲子園も含めて、後押しをされていかれたらよろしいのではないかと思います。

以上です。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、村井委員、よろしく願いいたします。

○村井委員 まず、両大臣からもお話のあった横展開ということなのですが、この実証や実践を地方自治体ベースですということ、長い間、いろいろな挑戦がなされてきていますけれども、横展開には大きなコストがかかるのです。先頭ランナーと先導者が

横展開のためにさらに力を出すためには、お金も力も必要ですので、横展開を狙うなら、先頭ランナーの御褒美ではないですけれども、横展開交付金のように、横展開をするために力を出してもらい仕組みがないと難しいと思うのです。ぜひそれを検討していただきたいということが1点です。

2点目は、私は久しぶりに世界を回ってきたのですけれども、このデジタル田園都市国家構想には世界からも大変大きな期待があります。このレビューや評価を、具体的に広報化して国内・国際に伝えていくことがとても重要だと思います。本日御発表になられた岡田大臣、河野大臣の下、ぜひ事務局に、本国家構想を評価して、通信簿をつけて、それを国内外に公表していくということをやっていただきたいと思います。

以上です。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、オンラインで御参加の平井委員、よろしくお願い申し上げます。

○平井委員

本日は、岸田総理、岡田大臣、河野大臣、松野官房長官をはじめ、皆様の大変な御尽力、ありがとうございます。

総合戦略が並行してスタートすることとなりました。ぜひ地方も一体となってやっていきたいと思います。感謝を申し上げます。

その上で、何点か申し上げます。

まち・ひと・しごと創生との整合性を十分につけていただいて、デジタルは一つのツールでありますので、それ以外の地域づくりが取り残されることがないように、これは結構自治体が心配していますので、よろしくお願い申し上げます。

お手元に資料でお配りしておりますが、左側のほうに表があります。これで見てくださいと、内閣府のデータですけれども、半分以上の20代の方で地方移住に関心があるとなっています。これは、コロナの影響だと思うのですね。また、デジタル化が進みまして、仕事のやり方が変わる。こうやって、移住等で地方が活性化するチャンスがめぐってきています。右側のほうにございますが、他方で、光ファイバー、5G、地方と大都市の格差、あるいは、東日本と西日本の格差がございます。さらに、人材、リテラシー、そうした問題もクリアしていかなければなりません。ぜひそういうところに配慮していただきながら、地方の声を聞き、総合戦略をまとめていただければありがたいと思いますし、財源の確保をしっかりとよろしくお願い申し上げます。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、増田委員、よろしくお願い申し上げます。

○増田委員 増田でございます。今日は、どうもありがとうございます。

現在の第2期総合戦略は、骨格が2019年につくられたものでございまして、コロナ以前であります。その後、大きく環境が変わったわけですが、DX環境が著しく進歩した。それから、急速な少子化、さらには、最近、また東京への転入超過も復活をしております。

したがいまして、私も、若い人を中心に、地方に移住ができるような環境整備、後押しをぜひ進めていく必要があると。DX、テレワークによって、転職なき移住が大いに以前よりも可能になりました。こうしたことを後押しするような力強い政策が必要かと思います。

また、富田委員も先ほどおっしゃっていましたが、企業の役割が大変重要でございます。JR東日本さんと私どもの日本郵政グループもお互いに協力して地方創生を地域で進めておりますが、こういったことをこれから進めていく上では、この間に行いました自治体対象の「夏のDigi田甲子園」は大変すばらしい取組でございましたが、冬に今度は民間を対象にしたものがあるとお聞きしております。こうした横展開をもっと進めていくような仕組みをぜひ取り上げて進めていただければと思います。

そのほか、資料にまとめておりますので、ぜひすばらしい総合戦略策定につなげていただきたいと思っております。

以上でございます。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、湯崎委員、よろしくお願い申し上げます。

○湯崎委員 ありがとうございます。

別途、資料、紙でも提出しておりますので、それも御参照いただければと思います。

これまでも申し上げているところなのですが、デジタル実装を成功させるためには、課題を自分事として捉えて、トライ・アンド・エラーを繰り返しながら取り組んでいくことが重要だと考えております。そういうトライ・アンド・エラーを繰り返す中で、人材も育って、地域に知見が蓄積されて、その力も高まっていくと考えます。こういった考えに基づきながら、本県においてもデジタル技術を活用した実証実験の場である「ひろしまサンドボックス」とその実装を促進する取組を行っておりますし、中国5県で防災システム共同利用と統一化に向けた取組などについて進めております。一方で、横展開が今もずっと議論に出ておりますけれども、証明されたものについては、小さな成功体験を積み上げるという意味も含めて、徹底的に横展開する必要がある。横展開のやり方が非常に重要だと思っております、ただ単に紹介するとか、財政的なインセンティブというだけではなくて、具体的な戦略や戦術もつくった上で、徹底的に進める必要があると思っておりますので、ぜひそれを計画の中に落とし込んでいただきたいと思います。

以上です。

○岡田国務大臣 ありがとうございます。

続いて、若宮委員、よろしくお願いいたします。

○若宮委員 若宮でございます。

まず、「夏のDigi田甲子園」で実際に参加いただいた報告の中には、上位入賞には至らなかったものの、きらりと光る何かを持った報告が幾つかあったように感じました。そういう報告は、自治体様の置かれている環境が似た環境にあるような地域には非常に参考になるのではないかと思います。そのようなアイデアを横展開しやすいような紹介の仕方を

何か工夫していただければと思いますし、また、総合優勝しなくても、その中に、いわゆるスーパー公務員と称される、すごくいろいろなノウハウを持った、お出来になる方があるように伺っていますけれども、そのような方の意見を承る機会があったらいいなと思っております。

マイナンバーカードですけれども、もうちょっと増加しないと、と思います。まだ持っていない方の中には、そもそも、マイナンバー、個人番号そのものと、マイナンバーカードとマイナポータルの意味の理解が不十分であったり、聞くと、何となく不安だからという方も多いのですね。そういう方に分かってもらえるような広報活動をさらにやっていただければと思います。もちろん、同時に、先ほどからお話がありますように、目に見えやすい、利用実感のあるマイナンバーカードを利用したサービスを官民で次々と提供していただくことが必要と思います。

以上です。ありがとうございました。

○岡田国務大臣 皆様、大変ありがとうございました。

最後に、岸田総理大臣から御発言をいただきます。

プレスが入りますので、少々お待ちください。

(報道関係者入室)

○岡田国務大臣 それでは、岸田総理より御発言いただきます。

よろしく願いいたします。

○岸田内閣総理大臣 委員の皆様方には、デジタル田園都市国家構想総合戦略の策定に向け、活発な御意見をいただき、感謝いたします。

先ほど岡田大臣より説明がありましたとおり、5か年の新たな総合戦略「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を本年12月に策定いたします。総合戦略の策定に当たっては、各地域が掲げる地域ビジョンの実現に向けて、政府一丸となって総合的・効果的に支援する観点から、関係府省庁が連携して予算の重点配分や人材派遣を行うなど、施策間の連携をさらに強化してください。

また、デジタルの力を活用しながら、地方自治体の枠組みを超えた地域間の連携を推進するとともに、デジタル実装を本格的に進めていくため、他地域で実践されている優良事例の横展開を加速化してください。

さらに、明日指示する経済対策において、地域の徹底したDXの推進が重要な政策です。経済対策において、デジタル実装を加速化していくために創設するデジタル田園都市国家構想交付金について、官民一体となって地域の課題解決に取り組むことができるよう、民間事業者の施設整備への支援を含め、拡充してください。

また、マイナンバーカードの普及状況を交付審査に反映するとともに、利用シーン拡大の取組を国が積極的に支援してください。

最後になりますが、「夏のDigi田甲子園」の成果について岡田大臣より説明がありましたが、地域のDXを推進する事業者をはじめ、民間の優れた取組を表彰する「冬のDigi田甲

子園」について、本日、ここに開会を宣言いたします。多くの方に御参加いただきたいと考えております。

今後とも、官民を挙げて、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を実現できるよう、しっかりと取り組んでまいります。

以上です。

○岡田国務大臣 総理、ありがとうございました。

プレスの方は、ここで御退室をお願いいたします。

(報道関係者退室)

○岡田国務大臣 それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。

本日は、誠にありがとうございました。またよろしくをお願いいたします。